

残暑お見舞い申し上げます

残暑の季語は、とつくに過ぎていますが、九月に入っても、連日猛暑、酷暑の文字が、紙面で飛び交っています。

私は、八月二十二日に六回目の新型コロナワクチンを、院長小山信二先生直々に摂取して頂きました。その上、立派な「株式会社しまじりFM十周年記念誌」を頂戴しました神奈川県在住の澤岷盛勇（八十歳）と申す者でございます。その節は、大変ありがとうございました。

接種後、翌朝、接種箇所少し痛みがありましたが、腕を使っているうち、何時の間にか痛みは治まっていた。小山先生に摂取して頂いた感動の痛みを、もう少し続けば良いのにと、欲張った思いがしたいくらい快調でした。

FMよなばるは、だれも住んでいない沖縄の実家に帰った時、古いラジオの教波数を合わせているときに「日本茶の種を蒔いたとか、トーマイ病院」とか、素敵なお声の男性パーソナリティの声が流れてきたので、本土（九州）の放送局か？と思いきや、沖縄民謡、昭和歌謡曲など、私でも馴染める音楽が流れてきました。

トーマイ病院は神奈川県厚木市の東名高速道路厚木インターチェンジ近くの東名病院だと、小山先生が（いや、パーソナリティでした）研修医の先生にインタビューなさっているのをお聞きして分かりました。

私が現役のころ、一時期赴任していた勤務施設の近くでした。

そんなこんなで、親しみを抱いて、帰省のたびにBGM（失礼）のようにFMよなばるお聞きしています。時折、公共事業への痛烈な批判をしたかと思えば、「たびたび島倉千代子でごめんなさい」と、ロマンスグレイのチャタリングで正直な男性パーソナリティだと、親しみを感しました。そして、そのパーソナリティが、南城つはこクリニックの院長であられることにびっくりしました。

こども達の投稿文にも手加減せず、ご自分のご意見をズバリ下し、公共事業への痛烈な批判も、沖縄愛、こども達への深い愛情に満ち溢れていると、受け止められるお人柄に魅力を感じました。一度、南城つはこクリニックを受診したいものだと思っていました。現役引退後、品行方正、省エネ生活を送っているためか、沖縄滞在中、風邪ひとつ引かなくなつて、八十路の、贅沢な悩みを悶々とした気持ちを抱えながら、伺える機会を狙っていました。

第6回新型コロナワクチン接種の通知が届いたとき、「これだ！」と、沖縄にその通知書を抱えて帰省し、喜び勇んで南城つはこクリニックに伺った（土曜日）次第です。他の自治体からですので、南城市のご案内を頂戴しました。その時の受付職員の方々の優しさも、あのFMよなばるの雰囲気そのものでした。翌々日伺った南城市の職員の方々の皆さんも、私のわがままな要望に応えるべく、担当職員全員が、一丸となつて対応して下さいました。南城つはこクリニックスタッフの皆様

様、南城市職員に、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、あと何回、沖縄で満月を観ることができるか分からない高齢者ですが、お伺いできる日、小山先生はじめ職員の皆様にお目にかかれる機会を楽しみにしております。(変な楽しみの動機かも知れませんが。)

私は、神奈川県西部の標高400から450m、コンビニも信号機もない丹沢山の麓に住んでいます。ご近所さんから頂いたお茶のお裾分けです。お召し上がり頂けたら嬉しく思います。

新型コロナ感染症は、治まる気配がありません。また、南城つはこクリニックには、インフルエンザ患者さんも多く見えておられるとのことで、小山先生はじめスタッフの皆様には本当にご苦勞様です。どうかご自身の健康にもご留意なさって、患者さんのためにご活躍ください。

この度は、本当に、ありがとうございました。

先ずは、右御礼まで

敬白

小山 信二先生

令和五年九月七日

澤 岷 盛 勇